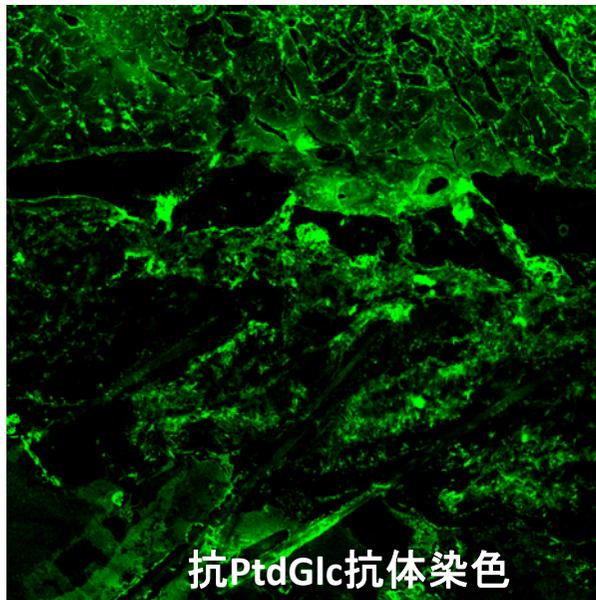


アトピー性皮膚炎における難治性かゆみにリゾホスファチジルグルコシド/GPR55系が関与するか

理化学研究所脳科学総合研究センター 平林 義雄

私たちが新しく見出した脂質性の神経軸索ガイダンス因子リゾホスファチジルグルコシド(LPG)はカンナビノイド受容体に属するGPR55を介して痛覚神経に反発応答を引き起こし、神経軸索の走行を制御しています。LPGは慢性疼痛を引き起こすことから、慢性かゆみにも関わる可能性が考えられました。マウス皮膚の凍結切片をPtdGlc特異抗体DIM21で染色してみると濃染される部位が散見されます。実際にPG,LPGの化学量を測定する目的で、超高感度のLC-MS測定計の開発を進めます。



ヒトアトピー性皮膚炎の患部・非患部におけるPtdGlc及びLyso PtdGlcの分布とその変動の定量解析を目標に、質量分析による解析系を開発しました。